

① 空 気
② 早 く
③ 手 玉

④ いとぐち
⑤ こいし

②
① イ ン
こ く
② イ

③ イ
④ ア
⑤ ま じ め

⑥
⑤ 「も可」
⑥ 五 人

③
① ウ
② カ
③ ア
④ ク
⑤ オ
⑥ キ

④
① ウ

②
ヒ ナ を 育 て る

③
ま た

④ ア
②
① イ
①
② ウ
②

配 点	
①	各2点× 5 = 10点
②~④	各5点× 18 = 90点
<計> 100点	

①の「空気」の「空」は、うかんむりをわかんむりにしたり、下の「工」を「土」にしたりしないようにしよう。②の「早（い）」は「時間が前のほうである」という意味である。三年生で習う「速い」は「かかる時間がみじかい」という意味でつかうのでまちがえないようにしよう。③の「手玉」の「手」は「一画めが右から左、二画めと三画めは左から右に書く。「玉」の五画めの点を書きわすれないようにしよう。④の「糸口」は字そのものはかんたんだが、「（解決の）きっかけ」という意味であることは知らなかった人が多いのではないだろうか。よく見るやさしい字でも、ことばになるとむずかしい意味になるものがあるので気を付けよう。また、「いとくち」と読んではいやまりである。⑤の「小石」はどちらも訓読みである。

②

1 物語の会話文では、ことばがはぶかれていることがよくある。ことばがはぶかれていることに気づいたときはどういうことなのかしっかり考えよう。ここではすぐ後でタダオが「教頭先生へのインタビュのけっかをほうこくした」ことからジュン子がタダオに何をするように言ったのかがわかる。

2 教頭先生のインタビューが、どれもそっけなくおもしろくないのでほんとうにインタビューをしたのかとうたがっているのである。問いかけには、いろいろな意味がふくまれていることがあるので気をつけよう。

3 「あやしい」とは「うたがいを感^かじてしまうようす」をあらわす。「自信がない」ということはタダオは自分のインタビューが「ちゃんと」していなかったのかもしれないと思^{おも}っているのである。

4 校長先生とくらべてぜんぜんおもしろくないインタビューだったのに、山本先生が見てわらうくらいおかしかったのである。思^{おも}っていなかったことが後につづいているので、「ところが」があてはまる。

5 山本先生がわらっているわけは教頭先生の答えが「いかにも教頭先生らしい」からであると書かれていた。「いかにも教頭先生らしい」とはどういうことかと読みすすめると、「いかにもあのまじめくさった教頭先生らしくておかしい」と書かれていたので、「教頭先生らしい」答えというのは「まじめくさった」答えであるということだと考えられる。

6 出てきた順に、ジュン子、タダオ、あつ子、ヤス子、純一郎の五人である。

③

ようすをあらわすことばの中から、人のようすをあらわすものを中心に出題した。

① 「しぶしぶ」はあまり気もちがすまないうようすをあらわす。

② 「にこにこ」はうれしくてほほえんでいるようすをあらわす。

③ 「いらいら」はふきげんであるようすをあらわす。

④ 「めそめそ」はかなしいことやつらいことがあって泣いているようすをあらわす。

⑤ 「そわそわ」はたのしみなことがあって気もちがおちつかないようすをあらわす。

⑥ 「ぶるぶる」はこわさや寒さでふるえているようすをあらわす。

④

1 ——線①のところを見ると、「条件のよい南の地方」とあるので、「南の地方」がどのようなものであったかを文章からさがすと、三行前に「暖かくてエサの豊富な南の地方」と書いてあるのでここがヒントになる。

2 わたり鳥が春になると北の地方へわたるわけは、「一方、」からはじまる段落に「北の地方では春がみじかく…ヒナを育てるのにとてもよい季節です」と書いてあった。——線がある問いでなくても、問いのことばをヒントに文章を読みなおすと答えが見つかることが多い。

3 前の半分が「わたり鳥がわたりをするわけ」、後ろの半分が「わたり鳥はきまった時期にきまったコースでわたりをする」という話である。

4 アは「敵からにげるため」がおかしい。とちゅうで敵におそわれる危険があるのでわたりをするのであった。イは「また、」ではじまる段落に書かれているとおりである。「春」、「日の長さがのびる」、「北へわたりはじめる」といったことばが書かれてあるとおりで正しいことをいねいにたしかめよう。ウは「まっすぐ星にむかって」がおかしい。星の位置を手がかりにして方向や位置を知るのであった。